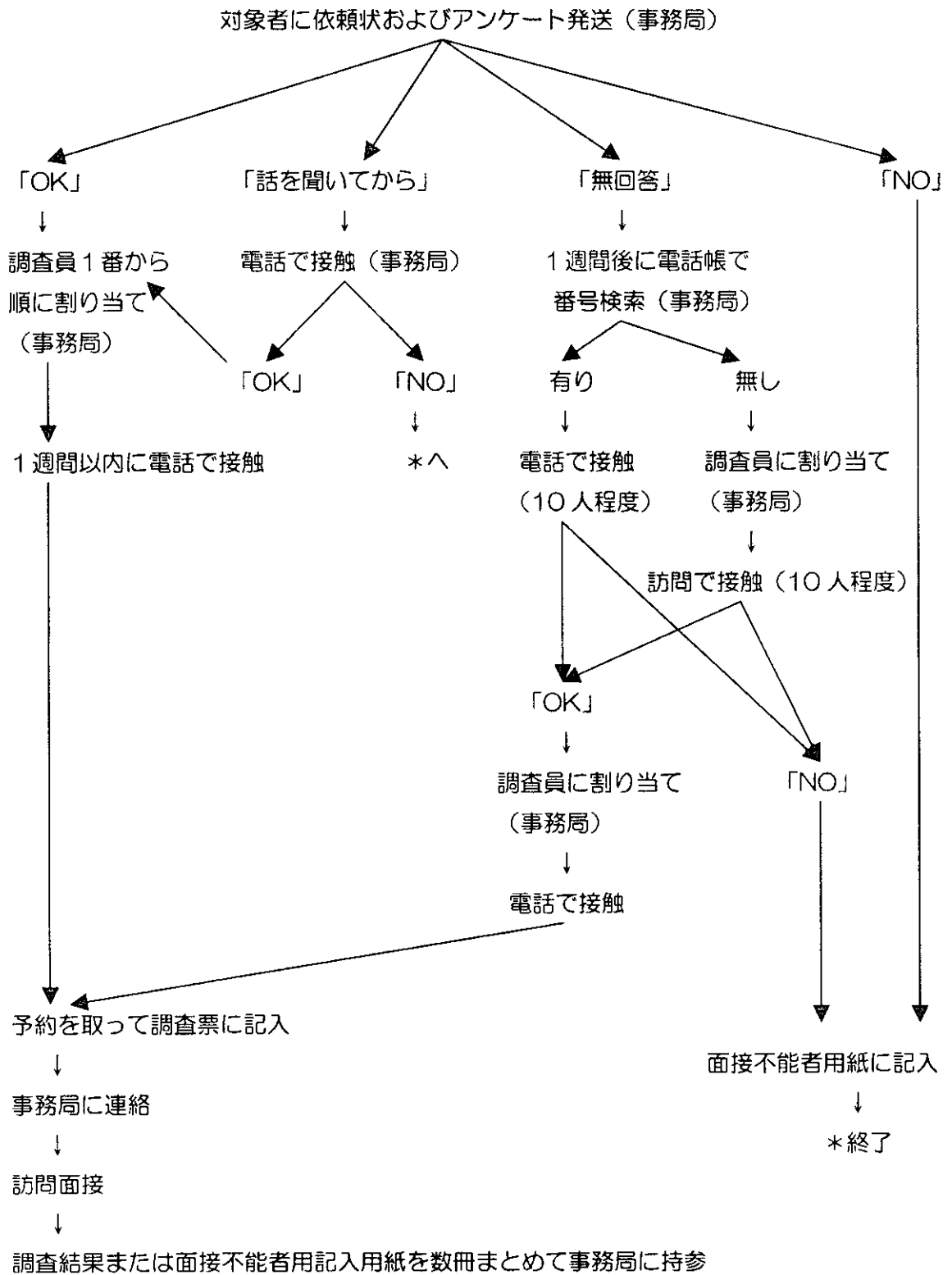


○調査の流れ



*調査が半日で終わる場合、行きか帰りにできるだけ事務局に来て近況報告して下さい。

*都合で担当分の面接に行けない場合、他の調査員に担当を代わってもらい、その旨を必ず事務局に連絡して下さい。

○調査の概要

一調査の目的

- ・地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているかを、WHO が開発した精神疾患にかかる総合国際診断面接（CIDI）を用いて調査する。
- ・こころの健康に関する調査のパイロット研究として、大規模疫学調査実施の基盤を明らかにするものである。

一調査の対象

- ・市川市在住の 20 歳以上の方から、選挙人名簿をもとに、まず投票所を 7カ所、その中から 340 人を抽出する（無作為抽出）。
- ・長崎においても調査を実施する。

一調査時期

- ・平成 12 年 2～3 月

一調査方法

1、専門的訓練を受けた調査員（心理学大学院生）による訪問面接調査

2、調査票

- ・予備質問票
- ・CIDI コアバージョン 2.1 日本語版

一調査員訓練

平成 12 年 2 月 4 日（金）9 00～17 00

5 日（土）9 00～17 00

6 日（日）9 00～17 00

*調査員進行状況の報告会…平成 12 年 2 月 24 日（木） 12.5 時から 16 時まで

場所：日本女子大学内

平成 12 年 3 月 日（ ） 時から 時まで

場所：精神保健研究所

○調査票記入時の注意事項

(1) 明確化と確認のきまり

- ・内容の誤解が疑われる場合には、質問（の全部ないし一部）を繰り返す。
- ・対象者から質問文の一部を訪ねられた場合には、その部分を繰り返す。
- ・回答選択肢の一部を訪ねられた場合には、「全選択肢」を繰り返す。
- ・「ひどく」等の定義は、対象者の判断・定義に基づく。

(2) よくある確認形式

- ・「それはどういうことでしょうか？」
- ・「もう少し詳しくお答え下さいますか？」
- ・「あなたはどのようにお考えですか？」
- ・「どちらの方が近いですか？」
- ・「どのくらいがもっともらしいところですか？」
- ・「もう少し限定して下さい。」

(3) よくある回答例

①「わかりません」「覚えていません」回答

- ・最大限の回想努力を促す 「もっともらしいところをお答え下さい。」
- ・症状項目の場合、覚えていないほど軽微だったということで、{症状なし}。

②「どういう意味ですか？」と聞き返された場合

- ・もう一度質問文を読み上げてみる。
- ・それでもわからなければ簡単な説明を加える。加えた説明と回答を余白に記録する。

③ 数字の記憶があいまいな場合

- ・「だいたいいいですから、一番確からしい数字を教えてください。」
- ・それでも不明なら回答欄の右どなりに「フメイ」と記入する。

④ 数字を記入する場合

- ・小数点第1桁を四捨五入する。
- ・2つ以上の数字、あるいは範囲で回答した場合には、「だいたいいいですから、一番確からしい数字を教えてください。」
- ・それでも決められなければ、小さい方の数字を記入する（但し、初回年齢は若い方、最終年齢は高い方を記録）。

⑤ 回答拒否

- ・回答欄の右隣りに「Rej」と記入する。
- ・面接終了後、セクションXに記入する。

⑥ どのように評価してよいかわからない回答

- ・余白にできるだけ詳しく対象者の回答を書き込む。後日、事務局で判定します。

(4) 困った時

① 調査員の個人的な経験を問われた場合

- ・「この研究では、あなた自身のご経験をうかがうことが大変重要なんです。」

② 対象者がアドバイスや情報提供を求めた場合

- ・「それにつきましては、一旦事務局に戻ってからご連絡します。」
- ・健康相談や心理相談的アドバイスは絶対にしない！

③ 脱線や聞いている以上のことを長々と話している場合

- ・「まだうかがうことが沢山ありますので、次に進もうと思います。」
- ・「もしその点についてもっとおっしゃりたいことがありましたら、面接が済んでからうかがいます。」
- ・アメリカでは両方を併用すると効果的らしい。
- ・それでもしつこければ「沈黙」も良い。

④ 対象者がそわそわしていたり、しきりに時計を見る場合

- ・「何かこのあと予定がおありですか。お話をすべてうかがうのに、約〇〇分かかりますが構いませんか。」
- ・同意が得られれば面接を続け、〇〇分たったら中止する。

***やってはいけないこと**

- ・相手の顔をまったく見ないで、機械的に質問文を読み上げること。
- ・「これはあなたにはあてはまらないかもしれませんが～」と言うこと。対象者がたとえ「はい」でも、こう言われると答にくくなってしまう。むしろ、「これはどなたにもうかがっている質問ですが～」とする方が良い。
- ・対象者の回答を聞かずに記入すること。面接者の予想や期待で、勝手に回答を決めてしまわないように注意。明らかに思えても、最低限、「～ですね？」と確認すること。
- ・健康相談、心理相談的アドバイスをすること。

○対象者からよく聞かれる質問について

① この調査の目的は何ですか？

「最近の統計で、我が国で {こころの問題} で治療を受けている人は 60 人に 1 人いると推定されており、今後増加すると思われます。そのため、当研究所では厚生省から研究費を得て、地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているか調査し、こころの健康づくりに役立てていくことを計画しました。この調査は、WHO の推奨する {こころの健康調査} を簡易化したもので、国際的にも信頼性の高いものです。」

② どうして自分が選ばれたのですか？

「市川市の選挙人名簿を正式な許可を得て閲覧し、この中から約 1000 人に 1 人の割合でくじで偏りのないように合計 400 名の方を選びました。これ以外に、あなたを選んだ特別な理由はありません。」

③ どんなことを訊かれるのですか？

「うかがいたい大きなことは 2 点です。」

1 つは、あなたの年齢、ご職業、ご家族構成について。もう 1 つは、これまで及び現在の身体やこころの健康状態について悩みをお持ちかどうか、もしお持ちだとしたらどのような悩みかというようなことです。その他、あなたの体力や、タバコやお酒の飲み方についてもうかがいます。」

④ 調査はどのくらい時間がかかりますか？

「半数の方では、約 30 分で終わります。」

多くの方では 1 時間以内です。

長くなる場合もありますが、これはたいてい質問項目の内容の確認や、用語の定義の確認等のためであることが多いです。」

⑤ 誰が調査の責任者なのですか？

「国府台にある国立精神・神経センター精神保健研究所が調査を行っています。この研究全体の責任者は、所長の吉川武彦先生です。この調査の責任者は精神保健計画部長の竹島正先生です。今回の調査の取りまとめはすべて、国立精神・神経センター精神保健研究所で行われます。プライバシーは完全に守られます。調査にあたっては、3 日間のトレーニングを終了した心理学専攻の大学院生が調査員になっております。」

⑥ 結果はどのように使われるのですか？

「地域に暮らしている方が、どのようなこころの健康の課題を持っているかを知るために使われます。この時には、1人1人のお答えではなく、あくまで統計的な分析を行いますので、個人情報外部に漏れるようなことはありません。この結果、地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているかを知ること、こころの健康づくりに役立てていくことを計画しております。」

⑦ 結果はどんなところに発表されるのですか？

「専門家などが利用する国の研究報告書などに発表される予定です。市川市の広報などに一部が公表される可能性もありますが、統計的に処理されたデータであり、個人の情報が特定されることはありません。」

⑧ 調査対象者への謝礼はないのですか？

「ほんのわずかですが粗品をお渡ししてお礼に替えさせていただいております。」

⑨ 個人結果はもらえますか？

「調査結果の集計にあたっては、個人の名前は特定されませんので、個人ごとの調査結果はお返しできませんが、統計的な結果を含めた「こころの健康アドバイス」をパンフレットとして作成してお送りしたいと考えております。また、調査にご協力いただいたあとで、こころの健康についてご相談されたいときは、精神保健研究所で応じさせていただきます。」

市川市疫学調査

一問い合わせ電話対応マニュアル

国立精神・神経センター 精神保健研究所
「こころの健康についての基礎調査」
事務局 別所 晶子

<調査の基本的流れと対象者からの電話>

○対象者宅に「こころの健康についての基礎調査」ご協力のお願いを
送付（2/15）



○ハガキによる回答でOK が得られた対象者を各面接員に割り振る。
面接員が対象者と連絡を取り、面接日時を予約。（2月下旬頃～）

○返答のない対象者に対し、電話番号を調べ、連絡を取る。
番号不明の対象者に対しては、直接自宅を訪問し協力を依頼。
（直接訪問10名程度、2月下旬～3月初旬？）



○面接員が約束日時に対象者宅を訪問し、面接を実施。

入電時

「はい、こころの健康調査室担当の〇〇です。」

「調査に協力します」「連絡をください」等、調査OKの場合の対応

・ハガキによる回答ではなく、事務局への電話で調査協力の意志を伝えてくる対象者に対して

「ご協力ありがとうございます。失礼ですが、お名前とお電話番号を確認させていただきますか？（記入用紙にメモ）」

↓

「後日、面接担当者より面接予約の連絡をさしあげます。もし、前もってご都合の良い日がお分かりになるようでしたら、今の時点で何日か候補となる日を教えてくださいいただけますか？（記入用紙にメモ）」

↓

「担当者がお電話を差し上げる際に都合の良い時間帯はありますか？（記入用紙にメモ）」

「送付させていただいた封筒の中に入っていたハガキはポストに投函していただきましたでしょうか？」

→（未投函）「お手数ですが、ハガキを記入してポストにいられていただけますか。」

↓

「それでは、調査へのご協力をよろしくお願いいたします。お電話ありがとうございました。」

調査拒否の場合の対応

・ハガキによる回答ではなく、事務局への電話で調査拒否の意志を伝えてくる対象者に対して

「わかりました。失礼ですが、お名前とご自宅のお電話番号を教えてくださいいただけますか？よろしかったら、ご協力いただけない理由をお答えいただけますでしょうか？わざわざご連絡ありがとうございました。お手数ですが、封筒の中の返信用ハガキを記入してポストに投函していただけますか？（記入用紙にメモ）」

調査に関する質問・苦情・抗議の電話の場合の対応

- ・ 調査に対する質問および苦情・抗議の電話をしてくる対象者に対して

「どうやって住所を調べたのですか？」

市川市の選挙人名簿を正式な許可を得て閲覧して調べました。

「どういう人が選ばれたのですか？」

・市川市の選挙人名簿の中から、約 1000 人に 1 人の割合でくじで偏りのないように合計 350 名の方を選びました。これ以外に、〇〇さんを選んだ特別な理由はありません。

「この調査の目的は何ですか？」

最近の統計で、我が国で「こころの問題」で治療を受けている人は 60 人に 1 人いると推定されており、今後増加すると思われます。そのため、当研究所では厚生省から研究費を得て、地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているか調査し、こころの健康づくりに役立てていくことを計画しました。この調査は、WHO の推奨する「こころの健康調査」を簡易化したもので、国際的にも信頼性の高いものです。

「誰が調査の責任者なのですか？」

国府台にある国立精神・神経センター精神保健研究所が調査を行っています。この研究全体の責任者は、所長の吉川武彦先生です。この調査の責任者は精神保健計画部長の竹島正先生です。今回の調査の取りまとめはすべて、国立精神・神経センター精神保健研究所で行われます。プライバシーは完全に守られます。調査にあたっては、3 日間のトレーニングを終了した心理学専攻の大学院生が調査員になっております。

「どんなことを訊かれるのですか？」

うかがいたい大きなことは 2 点です。1 つは、あなたの年齢、ご家族構成等について。もう 1 つは、これまで及び現在の身体やこころの健康状態について悩みをお持ちかどうか、もしお持ちだとしたらどのような悩みかというようなことです。この他、あなたの体力や、タバコやお酒の飲み方についてもうかがいます。

「調査はどのくらい時間がかかりますか？」

…多くの方では1時間程度です。長くなる場合もありますが、これはたいてい調査項目以外に、つい世間話をしてしまうためであることが多いです。

「結果はどのように使われるのですか？」

地域に暮らしている方が、どのようなところの健康の課題を持っているかを知るために使われます。この時には、1人1人のお答えではなく、あくまで統計的な分析を行いますので、個人情報外部に漏れるようなことはありません。この結果、地域に暮らしている方がどのようなところの健康の課題を持っているかを知ること、こころの健康づくりに役立てていくことを計画しております。

「結果はどんなところに発表されるのですか？」

・ 専門家などが利用する国の研究報告書などに発表される予定です。市川市の広報などに一部が公表される可能性もありますが、統計的に処理されたデータであり、個人の情報が特定されることはありません。

「調査対象者への謝礼はないのですか？」

ほんのわずかですが1000円分の図書券をお渡ししてお礼に替えさせていただいております。

「個人結果はもらえますか？」

…調査結果の集計にあたっては、個人の名前は特定されませんので、個人ごとの調査結果はお返しできませんが、統計的な結果を含めた「こころの健康アドバイス」をパンフレットとして作成してお送りしたいと考えております。また、調査にご協力いただいたあとで、こころの健康についてご相談されたいときは、精神保健研究所で応じさせていただきます。

2000年 月 日 () 時 分 応対者：

相手の名前 _____

電話番号 _____

連絡可能時間帯 _____

調査に関する質問 苦情 その他 ()

詳細（電話の内容および応対者の対応）：

電話後の対応：

- 調査に同意 ()
- 調査に協力拒否 ()
- 対応不能 → 竹島先生へ → ()
- 対応不能 → 折り返し電話 (Tel () → ()
- その他 ()

「こころの健康についての基礎調査」ご協力をお願い

拝啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。このたび、当研究所より突然のお手紙を差し上げ、たいへん驚かれたことと思います。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

当研究所は、国立試験研究機関として1954年に、ここ市川市に開設されて以来、こころの健康についての研究と研修に取り組んでまいりました。当研究所の取り組んできたこころの健康についての研究は、こころの病や痴呆症を持つ人の生活を守る方法、アルコール依存症の予防、睡眠障害の予防と治療、大きな災害にあった人のこころの健康の問題、登校拒否の治療などで、そのときどきの社会の要請に応じながら取り組んできました。

ところで最近の統計によると、我が国では「こころの健康」の問題で治療を受けている人の数は約217万人（国民の60人に1人）と推定されております。そして、この数は今後さらに増加すると予測されており、こころの健康は社会全体の大きな課題となっております。

このため、当研究所では厚生省から経費を得て、地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているか調査し、こころの健康づくりに役立てていくことを計画いたしました。この調査は世界保健機構（WHO）の推奨する「こころの健康調査」を簡易化したもので、国際的にも信頼性の高いものです。

新年度を間近にした今日この頃、日々お忙しいことと存じますが、この調査の趣旨をご理解いただき、是非、ご協力・ご支援いただきますようお願い申し上げます。

本調査への参加協力へのご意志につきましては、同封しましたはがきにて、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

別添の資料に明記しておりますが、今回の調査過程において得られた情報につきましては固く秘密を守り、個人情報外部に漏れることがないように万全の注意を払います。また協力いただいた方々の人権にも適切に配慮しながら、調査を進めていきます。

何卒、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

敬具

平成12年2月

国立精神・神経センター 精神保健研究所長
「こころの健康についての基礎調査」責任者
千葉県市川市国府台1-7-3
吉川 武彦

「こころの健康についての基礎調査」についての説明

調査の目的

我が国では「こころの健康」の問題で治療を受けている人の数は約217万人（国民の60人に1人）と推定されております。しかも、この数はさらに増加すると予測されており、こころの健康は社会全体の大きな課題となっております。このため、当研究所では厚生省から経費を得て、地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているか調査し、こころの健康づくりに役立てていくことを計画いたしました。

この調査の目的は、地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているか調査し、こころの健康づくりに役立てていくことです。

調査の内容

この調査は世界保健機構（WHO）の推奨する「こころの健康調査」（英語の原題は、The World Mental Health 2000 WMH2000 と呼ばれています）を簡易化したもので、国際的にも信頼性の高いものです。

今回、調査に協力をお願いした方は、市川市選挙管理委員会に申し込み手続きを行ったうえで、選挙人名簿から、くじ引きのように、まったく偏りのないかたちで選ばせていただいた400人の方です。調査の内容は、調査にご協力いただく方々が、こころの健康状態についてどのような悩みを持っているか、あらかじめ設けられた質問項目に沿って、一定の方式で面接によってお聞きするものです。調査に必要な時間は、およそ30分から60分くらいです。

調査の具体的方法

調査にご協力いただけるとのご返事をいただきましたら、精神保健研究所から訪問の日時を予約させていただきます。そして予約した日時に調査員が訪問し、ご家庭で、もしくは適切な場所で面接調査を行います。調査のあと、面接調査票は対象者の前で封をさせていただきます持ち帰らせていただきます。そして精神保健研究所内の事務局で記載事項のチェックを行います。ご協力をお願いするのは、この面接調査です（事務局で記載事項のチェックを行った結果、どうしても内容確認が必要な場合は、訪問した調査員から電話等で確認をさせていただくことがあります）。

調査による利益と不利益

今回の調査は面接調査で行われ、身体的な検索はまったく行いません。また、調査結果は完全に統計的に処理され、個人名が精神保健研究所の外に出ることは決してありません。訪問させていただく調査員は、全員この調査実施のため特別のトレーニングを受けた心理学の専門教育を受けた者です。調査にご協力いただいた方のプライバシーは完全に保護さ

れます。

調査結果については統計処理がなされるため、調査にご協力いただいた方に個別のデータをお返しすることは不可能ですが、統計的な調査結果を含めた「こころの健康アドバイス」をパンフレットとして作成してお送りしたいと考えております。また、調査にご協力いただいたあとで、こころの健康について相談されたいときは精神保健研究所で応じさせていただきます。調査にご協力いただいた方々には、心ばかりですがテレホンカードをお礼に差し上げたいと思っております。

さいごに

本調査は、調査にご協力いただく方の自発的なご協力に基づくものであり、お断りになってもまったく不利益はございません。

また、調査にご協力をいただくことには、ご自分の状態を十分に聞いてもらえるという利点もありますが、はじめて会う調査員にご自分のことを話すという気持ちの重さもあると思います。調査に当たる私どもも、このことは十分承知しているつもりでございますが、本調査の社会的重要性をご理解いただき、ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

なお、本調査について、更に詳しく知りたい方、何かご疑問のある方は、遠慮なく本調査担当研究室にご連絡ください。

調査全体の責任者	吉川 武彦	所属	国立精神・神経センター精神保健研究所所長
市川市での調査責任者	竹島 正		同研究所 精神保健計画部長
事務局担当研究者	別所 晶子		同研究所 「こころの健康」調査室

連絡先 〒272-0827 千葉県市川市国府台1-7-3
国立精神・神経センター 精神保健研究所 精神保健計画部内
「こころの健康」調査室
電話 047-372-0141
(内線) 1211

返信用はがきの宛名印刷

〒272-0827

市川市国府台1-7-3

国立精神・神経センター精神保健研究所

「こころの健康」調査室

吉川 武彦 行

返信用はがきの文面

「こころの健康についての基礎調査」に、

私は 協力いたします

調査スタッフの話を聞いてから決めます

協力できません

上記のいずれかに○をつけてください

なお、本調査を拒否される方を除いて、今後連絡させていく場合に、電話番号をお知らせいただければ幸いです。

電話番号

もしあれば、他の連絡方法

あなたのお名前

「こころの健康についての基礎調査」予備質問票

1. 「こころの健康」に関することで、あなたが知りたいと思うことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。
- () 子育てとこころの健康（育児ノイローゼの予防など）
 - () 学校生活とこころの健康（学校不適應の予防など）
 - () 家庭生活とこころの健康（夫婦や親子関係など）
 - () 職場のストレスと「こころの健康」（対人関係、明るい職場づくりなど）
 - () 退職後の生活と「こころの健康」（充実した老後の過ごし方など）
 - () 高齢者などの介護と「こころの健康」（介護する家族のこころの健康など）
 - () 「こころの病」の成り立ち、予防や治療について
 - () 災害やひどく悲しい出来事に出会った人の「こころの健康」
 - () その他 ()
2. これらについて、あなたはどこから情報を得たいと思いますか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。
- () テレビやラジオ
 - () 新聞や雑誌の記事
 - () 本やビデオ
 - () インターネット
 - () 市民を対象の講演会など
 - () 市役所や保健所の行う健康相談
 - () かかりつけの病院や診療所
 - () 「こころの病」を専門に診療する病院や診療所
 - () その他
3. あなた自身が強いストレスを感じた場合には、どこに相談したいと思われますか。
あてはまるものに3つまで○をつけてください。
- () かかりつけの病院や診療所
 - () 市役所や保健所の専門職員
 - () 「こころの病」を専門に診療する病院や診療所
 - () 家族や親しいひと
 - () カウンセリングなどの専門機関
 - () 職場の同僚、サークル活動の仲間など
 - () 宗教関係の知り合い
 - () その他 ()

National Center for Neurology and Psychiatry

National Institute of Mental Health

1-7-3 Kohnodai, Ichikawa

Chiba 272-0827

Japan

Phone

047-372-0141

調査員番号 _____

殿

上記のものは、「こころの健康についての基礎調査」の面接調査員として訓練を受けた、国立精神・神経センター精神保健研究所の正式な面接調査員であることを証明します。

平成 12 年 2 月

国立精神・神経センター精神保健研究所 所長

「こころの健康についての基礎調査」責任者

吉川武彦

有効期間 平成 12 年 2 月 1 日～平成 12 年 3 月 31 日

National Center for Neurology and Psychiatry

National Institute of Mental Health

1-7-3 Kohnodai, Ichikawa

Chiba 272-0827

Japan

国立精神・神経センター 精神保健研究所 所長

「こころの健康についての基礎調査」責任者

吉川武彦

同 意 書

本調査では、地域に暮らしている方がどのようなこころの健康の課題を持っているかについて明らかにし、こころの健康づくりに役立てていくことを目的としております。調査は、正式な訓練を受けた専門調査員による訪問面接調査です。

本調査で得られた個人データは全て統計的に処理され、本調査においてのみ使用されます。個人名が特定されたり、個人のプライバシーが外部に漏れる心配はありません。

また、ご本人のご希望があれば、面接調査にご協力頂いた日を含めて7日以内の場合、調査データの返却処分に応じます。

本調査の趣旨を十分理解した上で上記の内容に同意し、調査に協力致します。

平成 年 月 日

(あなたのお名前)

(調査員)

<面接報告用紙>

1. 時間通りに対象者宅に到着した。 「はい」 「いいえ」
* 「いいえ」の場合、どのくらい遅く/早く着いたか 分

2. 所要時間 分

3. 対象者とコミュニケーションがうまくとれた。 「はい」 「いいえ」
* 「いいえ」の場合、対象者の理解が得られなかった点

4. 面接中に気づいた点

5. 改善すべき点

6. その他

<面接不能者用記入用紙>

面接対象者情報

[面接対象者リストより書きうつす。]

面接対象者氏名 _____ 対象者番号 _____

面接対象者電話番号 _____ 性別 男・女 年齢 _____ 才

調査員情報

調査員氏名 _____

調査員番号 _____

調査日 _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時から _____ 時まで